

モーツァルト 作曲
Oiseaux, si tous les ans
鳥たちよ、毎年のように

・キャッチフレーズ

鳥さんたちの可愛らしさと憂いが凝縮された小品

・プログラムノート

18世紀オーストリアに生まれた作曲家、モーツァルトが22歳のときに書いた作品。彼は5歳のころから即興演奏で作曲をしはじめ、神童と呼ばれた。若いころは特にヨーロッパ各地を巡回していた。その巡業中に、マンハイム（現在のドイツの都市）にてこの作品をかいた。モーツァルトは、教会音楽、オペラ、歌曲、交響曲、室内楽曲、様々な分野にとっても多くの作品を残している。歌曲においても数多く残っているが、彼の母国語のドイツ語による作品が多いなか、フランス語による作品はたったの2曲のみである。理由はただ、依頼主の渡した詩がフランス語であったという単純なものであろう。

短い前奏ではじまり、鳥がまるでびよんびよんはねたり、羽ばたいていくような音型で歌われ、ピアノと共に場面転換をするように表情がころころと変わっていく。

短い歌曲だが、詩のなかで「鳥たちは毎年のように住処を変える。～お前たちは花の季節しか愛することができない、花の季節が過ぎると一年中愛するために別の場所を探すのだ。」とあるように、短いなかでも曲の表情がどんどん変わっていく可愛らしい作品である。